



「認知症にやさしい地域」を評価する

～どのように地域を評価し、取組を促進できるか～

2017年4月29日(土) 11:00～12:30

京都国際会館 1階 Room D

第32回国際アルツハイマー病協会国際会議

認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ

Dementia Friendly Japan Initiative (DFJI)

世界認知症若手専門家グループ 日本支部

The Japan Chapter of the World Young Leaders in Dementia (WYLD-J)

公益社団法人 認知症の人と家族の会

Alzheimer's Association Japan (AAJ)

司会：中西三春（東京都医学総合研究所／DFJI／WYLD-J，日本）

開会に向けて	河野禎之（筑波大学／DFJI／WYLD-J，日本）
開会挨拶	金子裕美子（AAJ 新潟県支部，日本）
グローバルに進む高齢化と認知症	茅野龍馬（WHO 健康開発総合研究センター，日本）
日本の取組の紹介（1） 認知症にやさしい地域に関する指標の開発	尾島俊之（浜松医科大学，日本）
日本の取組の紹介（2） 「認知症にやさしい地域づくりの評価と行動のためのマニュアル」について	河野禎之（筑波大学／DFJI／WYLD-J，日本）
日本の取組の紹介（3） 認知症にやさしいまちを実現するために -京都と宇治における取組と評価-	平尾和之（京都文教大学／AAJ／DFJI／WYLD-J，日本）
海外の取組の紹介とコメント（1） 地域における認知症にやさしい取組の促進 -WYLD ネットワークとカナダの取組例-	Kristine Newman（ライアソン大学／WYLD，カナダ）
海外の取組の紹介とコメント（2） 認知症の人にやさしい地域社会の構築	Jeremy Hughes（英国アルツハイマー病協会，英国）
パネル・ディスカッション	司会：河野禎之（筑波大学／DFJI／WYLD-J，日本）
閉会挨拶	中西三春（東京都医学総合研究所／DFJI／WYLD-J，日本）

ワークショップの目的

「認知症にやさしい地域」は、その地域に住む認知症の本人と家族とともに、医療・介護従事者のみならず、自治体や企業を含めた多様な属性の人々による地域での取組により成し遂げられるものです。本ワークショップでは、これらの動きを加速するため、「『認知症にやさしい地域』をどう評価し、地域の取組を促進していくか」をテーマとします。

プログラムの前半では評価に取り組む各方面の代表者から話題提供を募り、現状の知見や活動を共有します。後半では話題提供を踏まえた意見交換を行い、課題の共有とアプローチの相互理解を深めます。本ワークショップを通じて、参加者と「認知症にやさしい地域」を評価する方法論について包括的な視点を共有し、今後の展開に向けた継続的な取組の必要性を確認します。特に日本での地域に根ざした取組の具体例を世界に向けて発信することで、国際的な展開と協力を進めるための出発点として位置づけます。

座長



河野 禎之

臨床心理士。筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門助教。東京学芸大学で2005年に修士、筑波大学で2012年に博士(障害科学)を取得し、一貫して認知症の人と家族の支援に関する研究に関わる。研究領域は、認知症の認知機能障害及び行動・心理症状のアセスメント、社会における認知症の人と家族のダイバーシティとソーシャル・インクルージョン、日本における認知症にやさしい地域の評価等がある。認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ (DFJI) 及び世界認知症若手専門家グループ (WYLD) の一員である。

登壇者



金子 裕美子

公益社団法人認知症の人と家族の会新潟県支部代表, ADI 2017 日本組織委員会委員
25年前の義父の介護の時は、認知症の理解が足りず、混乱して泣いてばかりの日々でした。同じ思いの仲間が集まって新潟県支部を立ち上げ21年が経過。その間、多くの苦悩と困難な状況にある認知症介護家族とご本人と共に過ごしてきました。そして、17年間単身赴任だった夫が、自宅に戻って間もなく脳梗塞で倒れ、24時間トイレの中まで一緒に生活も早11年。それに加えて6年前から両親を引き取り介護中。「人には優しく、自分にはもっともっと優しく」をモットーに、頑張らない介護を実践中。深刻な悩みも、見方を変えると笑いの種に。人生は何と豊かで味わい深い事でしょう！！



茅野 龍馬

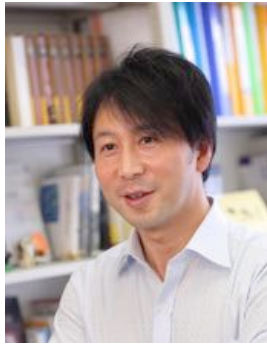
WHO 健康開発総合研究センター テクニカル・オフィサー

長崎大学医学部医学科卒業。東京都立松沢病院初期研修修了。学生時代から国際 NGO の活動や、国内外のボランティア活動に従事する。東日本大震災時は福島、岩手に東京都の精神科支援医療チームとして派遣され、超急性期の医療支援に携わる。長崎大学病院精神神経科で修練医、民間病院精神科で医員として勤務する傍ら、神経薬理学領域で、分子生物学、再生医療の研究に従事する。平成 27 年 5 月、WHO 健康開発総合研究センターのテクニカルオフィサーに就任。専門医官として、認知症を中心とした精神医学領域、災害医療領域の研究のコーディネートをを行う。



尾島 俊之

医師。浜松医科大学医学部健康社会医学講座教授。自治医科大学を 1987 年に卒業し、1995 年に同大学で博士（医学）を取得。臨床医、愛知県設楽保健所長、同大学教員を経た後、2006 年から現職。研究分野は公衆衛生学及び疫学であり、介護予防、健康寿命、母子保健、災害対応など。厚生労働科学研究（認知症政策研究事業）「認知症発生病リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指した Age-Friendly Cities の創生に関する研究」の研究代表者を務めている。



平尾 和之

京都文教大学／認知症の人と家族の会／認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ／WYLD-J

精神科医・臨床心理士。1999 年京都大学医学部卒業。神戸市立医療センター中央市民病院にて内科研修医として勤務。2001 年から京都大学医学部附属病院にて精神科医として仕事を始める。2002 年-2004 年、京都府立洛南病院勤務中に、京都・宇治で認知症専門家として活躍されている森俊夫医師と出会う。その後、2004 年-2008 年、京都大学大学院医学研究科精神医学教室にて、MRI を用いた統合失調症の社会認知障害の研究に従事。2008 年に医学博士を取得。2008 年-2010 年、英国ロンドン大学精神医学研究所にて研究員として勤務。2010 年、京都文教大学臨床心理学部准教授。2017 年より教授。神経科学と心理療法のコラボレーションをテーマとし、認知症当事者の方々の主観的世界や生き方を思いながら、宇治市認知症アクションライアンスに参加している。



Kristine Newman (クリスティン・ニューマン)

カナダ・オンタリオ州トロントにある、ライアソン大学コミュニティサービス学部ダフネ・コックウェル看護学科で准教授を務める。担当する研究プログラムとしては頭脳循環、若年世代と認知症の人との関わり、ジェロンテクノロジー（老化に関する科学と近代技術の融合領域）があげられる。世界認知症若手専門家グループ（WYLD）の創設メンバーであり、2017 年 1 月まで WYLD 運営グループ委員会に加わっていた。現在は WYLD 運営グループ委員会のアドバイザーを務めている。【企画者による和訳】



Jeremy Hughes (ジェレミー・ヒューズ)

2010年11月より英国アルツハイマー病協会に参画。2017-22年の5年にわたる転換戦略「認知症に関する新政策」において、その慈善団体（訳者註：英国アルツハイマー病協会）を主導する。最上位のアナウンサーであるアンジェラ・リップンと共に、英国首相の（訳者註：認知症に対する挑戦の）認知症に優しい地域社会づくり運動の共同議長を務める。前職では Breakthrough Breast Cancer（乳がん慈善団体）の最高責任者として、明確なビジョンの伴ったリーダーシップを発揮し、その慈善団体の研究プラットフォームや、キャンペーンと方針に対する力を活性化してきた。その前は、国際赤十字・赤新月社連盟で渉外部門の長を務めた。保健医療福祉の慈善団体における経歴としては、英国赤十字、レオナルド・チェチャー財団、筋ジストロフィーの会、NCH Action for Children（児童福祉援助団体）といった組織で指導的な立場を果たしてきた。2009-14年にかけては National Voices（保健医療福祉の慈善団体の連合）の議長を務めた。現在は英国認知症行動連盟の共同議長であり、世界アルツハイマー病・認知症行動連盟の議長でもある。また世界認知症諮問委員会の委員でもある。2015年のイギリス女王誕生記念叙勲において、高齢者へのサービスの功績に対し、大英帝国勲章 CBE（司令官）を授与された。【企画者による和訳】



中西 三春

中西三春博士は公益財団法人東京都医学総合研究所の主席研究員であり、心の健康プロジェクト精神保健看護研究室の副室長である。東京大学で保健学を修め、2000年に学士、2002年に修士号、2005年に博士号を取得した。

中西博士は看護師として認知症ケアの研究領域に従事しており、世界認知症若手専門家 (WYLD) の一員である。現在進行している研究では認知症緩和ケアや終末期ケアに関する様々な知見を生み出している。

ワークショップ企画・提案者

河野禎之（筑波大学／DFJI／WYLD-J）

岡田 誠（富士通研究所／DFJI）

中西三春（東京都医学総合研究所／DFJI／WYLD-J）

原 等子（新潟県立看護大学／認知症の人と家族の会／WYLD-J）

徳田雄人（NPO 法人認知症フレンドシップクラブ／DFJI／WYLD-J）

庄司昌彦（国際大学／DFJI）

河上崇陽（マルホ株式会社／DFJI）

ワークショップ企画協力者

大島千帆（埼玉県立大学／WYLD-J）

Jang Minyoung（明治学院大学／DFJI）

田中克明（コクヨ株式会社／DFJI）

狩野光伸（岡山大学／日本学術会議／the Global Young Academy／WYLD-J）

山川みやえ（大阪大学／DFJI／WYLD-J）

荒川直美（NPO 法人むすび／DFJI）

鷺巣典代（認知症の人と家族の会）

金子智紀（慶應義塾大学／DFJI）

